

保護者の皆様

令和6年12月23日

吹田市立吹田第六小学校
校長 保田 信子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として実施された「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月末に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年を対象とした調査です。今年度は、国語、算数の2教科のみの実施であり、測定された結果は学校における教育活動の一つの側面、学力の一部を示すものと考えております。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

国語《概要》

知識及び技能の内容（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方）は全国値を上回った。思考力、判断力、表現力の内容（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）は全国値を下回った。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することに課題がみられる。

書くこと

・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに関しては全国値とほぼ同値である。しかし、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むこと

・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることは、全国値とほぼ同値である。しかし、人物像や物語を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

言語の特徴や使い方に関する事項

・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。

《国語科における成果と今後の取り組み》

国語科では、情報と情報に関係付ける問題において正答率も高く、全国値を大きく上回っていることもあり、普段からイメージマップなどの思考ツールを用いて考えを広げる活動に取り組んでいる成果が出ているといえます。さらに、国語科だけでなく他の教科でも、キーワードや文字数など、指定された条件をふまえて自分の考えを書く活動に取り組むことで、さらに力を伸ばしていきたいと思います。

一方で、人物像や物語の全体像を具体的に想像することを問う問題では正答率が全国値を下回っており、初めて出会う文章に慣れていない傾向が見られました。読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づいているかを問う問題でも正答率が全国値を下回っていたことから、学校生活の中で様々な文章や本に親しむ時間を充実させ、文章を読んで登場人物の相互関係や心情を想像する経験と、様々な表現の効果に触れる経験をさせたいと考えています。

算数《概要》

数と計算・図形・変化と関係において、平均正答率は全国値を下回っている。データの活用においては、全国値とほぼ同じである。

《各領域における成果と課題》

数と計算

全国値をやや下回っている。

- ・除数が小数である場合の除法の計算をすることはできる。しかし、除数と商の大きさの関係について理解することには課題がある。
- ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題がある。
- ・計算に関してなりたつ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力に課題がある。

図形

全国値をやや下回っている。

- ・直方体の見取り図について理解し、かくことができている。また、円柱や角柱に関しても展開図や面の数を理解している。
- ・直径の長さ、円周の長さ、円周率のそれぞれについては理解できているが、それらの関係を捉えることに課題がある。

変化と関係

全国値を下回っている。

- ・道のりと時間の関係について考察したり、式に表したりすることに課題がある。
- ・道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力に課題がある。

・速さの意味について理解することに課題がある。

データの活用

全国値とほぼ同じである。

・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができている。

・簡単な二次元のグラフを読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することに課題がある。

《算数科における成果と今後の取り組み》

算数科では、分野別にみても全国値とほぼ同じか下回っているという結果でした。特に記述式になると無回答率が上がっています。自分の考えを整理したり話したりする学習活動を積極的に取り入れ、自分の考えを言語化できるように指導していきたいと考えています。また文章の全容を理解せず回答してしまう傾向が見られました。算数科だけでなく、全教科で読む力を高める必要性を感じました。

正しく計算したりグラフを読み取ったりする力は付いているので、引き続き毎週取り組んでいるモジュールでの計算タイムを継続していきます。

2. 生活や学習環境に関する調査

生活習慣

(7)「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」

7割に足らず、全国値を下回っている。

自己有用感

(9)「自分にはよいところがあると思いますか」

ほぼ9割の肯定的回答があり、全国値を上回っている。

規範意識

(13)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(12)「人がこまっているときは、進んで助けていますか」

全国値をやや下回っているが、およそ9割の肯定的回答を得ることができている。

学校生活

(14)「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

全国値を上回っている。

(16)「学校に行くのは楽しいと思いますか」

ほぼ8割近くの肯定的回答が得られているが、全国値を下回っている。

(18)「友達関係に満足していますか」

肯定的な回答は8割を超えたが、全国値を下回っている。

《今後の取り組み》

・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた児童の割合は、全国値を下回っています。児童の話をしていると、保護者と使い方について約束はしているようですが、その約束を守れていない児童が多く、デジタルシティズンシップ教育を家庭の協力も得ながら継続して指導していく必要があります。

・「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合は全国値を上回っています。毎年「良いところ見つけ」等の活動を年度当初に各学年で行っています。毎年継続して行ってきたことが積み重なり、成果があがっていると思われます。

・「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた児童の割合は全国値を上回っています。日頃から全教職員で児童を見守り、「あたたかい聴き方・やさしい話し方」を教職員が率先して実践してきた結果、児童が相談しやすい雰囲気をつくることができたのではないかと感じています。

・「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた児童の割合が全国値をやや下回っています。これまで実施してきた道徳科の授業やいじめ予防授業を見直し、全ての教育活動を通していじめを無くすための取り組みを進めていきます。

・「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合も全国値を下回っています。運動会や音楽会等の学校行事のみならず、普段の学校生活においても、児童の周りの大人（教職員、地域住民、保護者）から褒められるなど子ども自身が認められる経験を増やすことや、子ども同士でできたことや頑張ったこと、素敵などころなどを認め合う学校風土をつくり、自己肯定感・自己有用感を高め、学校が楽しいと感じる取り組みをさらに進めていきます。